



日本型教育のこれからを考える

校長

12月のある日、教頭先生から「昨日の〇〇〇〇〇（某番組）見ましたか？とても興味深い内容でしたよ。」と声をかけられました。その番組を見ていなかった私は、すぐにオンデマンド放送で見てみました。

アラブの春以降、混乱が続くエジプトでは、日本の教育「特別活動」を「TOKKATSU」と呼んで全国で導入し、子どもたちに革命的な変化が起きていると評されています。一方で、本家日本の特別活動（特活）は、働き方改革等とのかかわりから活動が削減されてきています。子どもたちにとって大切な教育は何か？を考えさせられる内容でした。

特活は、学校行事・学級活動・児童会活動・クラブ活動からなります。係活動や清掃活動等も特活の領域です。前述の番組を見て特活について再考していたタイミングで、ちょうど当校の「けやきっ子祭り（児童会祭り）」がありました。ブログでもお知らせした通り、3年生以上の各クラスが出店を出し、全校児童がお店を回って楽しむお祭りです。早速潜入捜査を試みました。

まず、驚かされるのは子どもたちの活気です。普段ちょっぴり物静かな子も、積極的にお店の説明をしています。看板を持ってお店の宣伝をしながら校内を回る子もいます。どの子も驚くほど俊敏に動き回っています。お店を運営する子もお店に入店する子も、一様にその表情は生き生きとしています。「やらされ感」はみじんもなく、各自が自分の意思で行動しています。相談・分担・協力も見られます。中には、お祭りの終わりの時間が迫り、他のお店に行く時間がなくなるくやしきから、涙ぐんだり怒ったりする子もいます。

「それくらい行きたいんだなあ」とその子の強い気持ちを察しながら「子どもたちがこんなに熱くなれるのはどうしてだろう？」と考えてみます。お祭りが終わると「うちの店、めちゃめちゃ繁盛してたよ！」「あのお店、超楽しかったよ。」とみんな集まって盛り上がっています。たくさんの方がお店に来てくれた喜びやお店に参加した楽しさを友だちと共有しています。

コロナ禍以降、限られた時間においてもどうしたら子どもたち一人一人の力が発揮される「けやきっ子祭り」になるか、検討を重ねてきました。そんな私たち教職員にとっても、子どもたちの見せる『本気』の表情に、苦労が報われる思いがしました。

また今年度、PTAやほっとハウス笹口の皆様が、アフターコロナの活動として工夫して開催して下さった「ナイトスクール」「笹口祭」「年末お楽しみ会」等の子どもたちの生き生きとした様子からも、これからの教育を考える上での重要な視点が見えてきます。

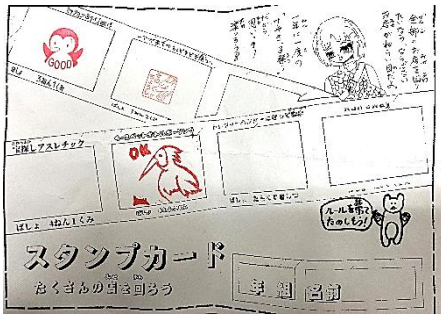
令和の日本型学校教育を考える時、いつも頭の中に「温故知新」という四字熟語が浮かびます。「温故知新」とは、「昔の物事を研究し吟味して、そこから新しい知識や見解を得る（広辞苑）」という意味です。新しい物や考え方にすぐに飛びつくことだけが改革ではなく、これまでの営みをしっかりと検証し、大切なものを継承したり工夫を加えて変化させたりすることも改革における重要な要素だと思っています。

子どもたちの思いや保護者・地域の皆様の願い、それに応えられる活力ある教職員の働き方にしっかりと目を向けながら、今後も学校改革に挑んでいきます。

2023年もあとわずかとなりました。皆様、よいお年をお迎えください。

12/14(木)

「可能性」「挑戦」「尊重」の力をさらに高めたけやきっこ祭り



総務委員会が作ったスタンプカード



3年1組 ミッション&クイズめいろ



3年2組 シアがあるかも! ときどき魚つり



4年1組 宝探しアスレチック



4年2組 ペットボトルボウリング



5年1組 トレジャーハンターになって脱出!



6年1組 RUN AWAY



はじめてお店を出した3年生の感想

まず、お客さんがいっぱい来てうれしかったので、店員としてすごくがんばれました。お客さんがたくさん来たから、急がないと待たせてしまうことになりました。なので、仕事を分たんして協力してやったら、こうりつよく動けるようになりました。1人でやるより、協力した方がいいと思いました。

また、今度いっしょけんめいがんばって、お客さんを楽しませたいです。友だちもいっしょけんめいがんばっていたので、みんな本当におつかれさまと思いました。また、楽しくけやきっこ祭りしたいと思います。